

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

施設名	高松市立 瓦町地下自転車駐車場、栗林公園駅前自転車駐車場、端岡駅前自転車駐車場		
指定管理者	高松市立駐車場等管理共同企業体	施設所管課等	交通政策課
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所在地	高松市常磐町一丁目3番地3(瓦町地下自転車駐車場)ほか		<駐車場等の維持管理・運営業務> 駐車場等の供用に関する業務 駐車場等の施設及び設備の維持管理に関する業務 利用料金の徴収及び収納に関する業務 駐車場等の利用促進に関する業務 管理に係る報告等に関する業務
施設の概要	【施設】<利用時間> 6:00～23:00 (瓦町地下自転車駐車場) 鉄筋コンクリート造 地下1階2層自走式、収容台数 960台 (栗林公園駅前自転車駐車場) 鉄骨平屋造(一部プレハブ造)自走式、収容台数 188台 (端岡駅前自転車駐車場) 鉄骨造、平屋・2階建て(一部プレハブ造)自走式、収容台数 650台		

	項目名	令和4年度	令和3年度	項目名	令和4年度	令和3年度
利用状況等	自転車 一時利用件数	48,062 件	43,663 件	回転率	28.6 %	28.8 %
	自転車 定期契約件数	2,407 件	2,599 件	アンケート回収数	未実施	未実施
収支状況等	指定管理料	27,603 千円	28,539 千円			
	収入実績(総額)	12,382 千円	12,278 千円			
	支出実績	28,994 千円	29,010 千円			

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性 ②平等な利用の確保	<端岡駅前駐輪場>新システム導入後の機械的トラブル、人的操作間違いに対し早期復旧を図るため管理センターでの一次対応を行っている。<レンタサイクル併設駐輪場>係員に対しレンタサイクル新システムの説明を行い係員及び利用者の混乱防止に努めた。新規施設利用者に対し安心して駐輪・定期更新ができるように説明、対応に努めた。<瓦町地下駐輪場>地下施設の高齢者、子供連れ利用者に対し可能な限り補助に努めた。ラックでの駐輪が難しい方への対策として実施した平面駐輪場所が使いやすさを向上させている。<端岡駅前駐輪場>事務所近くに高齢者、障害者の方が安心して利用いただける専用スペースを確保し案内、補助を継続して行った。通行妨害、駐輪場所を狭くするような迷惑行為に対し他利用者への妨げとならないよう協力要請を行った。適宜整理を行うことのできるだけ多くの方が公正に駐輪できるよう努めた。	A
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策 ②広報・PR対策 ③企画事業・自主事業 ④市・関係団体・地域等との連携 ⑤サービス向上の取組 ⑥相談・苦情への対応	管理者ホームページにおいて施設概要についての情報発信、動画による場所案内を継続して行っている。工事等により施設利用の制限がある場合は、事前周知を行った。イルカを定期利用証として使用することでの利便性を説明し利用促進を図った。<端岡駅前駐輪場>利用集中時の空きスペースの案内・プレハブ駐輪スペースへの利用誘導、自転車の整理等を継続し行うことで施設の利用効率を高めた。列車利用の入場者が集中する時間帯に入口ゲートを開放し待機時間の回避及び出場までの時間短縮を図った。<瓦町地下駐輪場>監視モニターにより利用者が安心して利用できるよう安全面の強化を継続して行った。地域貢献、地域振興を図る観点から高松市が主催、後援するイベント情報等のポスターを貼付し情報発信を行った。利用者からの要望、苦情については所管課に報告し管理者が対応可能な事業について対応を行った。対応が困難な場合は、所管課との協議を行った。<栗林公園駅前駐輪場>高松市が実施した利用時間変更(延長)に継続して協力した。ヘルメット着用努力義務化に伴いヘルメット着用推進ポスター作成及び施設への設置に協力した。施設利用に関するアンケートは、中止したが高松市が行ったヘルメット着用に関するアンケートについては配付・回収に協力した。	B
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等 ②教育・研修 ③就業規則等の遵守 ④施設運営の健全性の確保 ⑤損害保険等 ⑥収支計画と執行管理	地域に根ざした施設としての雇用を継続し管理水準が低下しない範囲で高齢者や社会的弱者への雇用機会を設けている。システムに対応(パソコン入力業務、利用者接客)できる人材の確保を行い全従業員を対象としたテキストによる接客研修、OJTに取り組んだ。利用者への安全確保、適切な対応、サービス向上を図れることを前提に管理業務に無理・無駄・偏りがないように業務ローテーションを行い勤務のマンネリ化を防ぐとともに、万が一の場合の即応体制を維持した。損害保険については、施設管理者賠償保険、現金動産総合保険に加入している。作成した収支計画に対しJV経理委員が定期的に確認を行っている。施設経費の執行については、JV運営委員会会議の承認により適切な執行管理に努め、係員による二重チェック・JV経理委員の確認以外に管理者構成会社監査室による内部監査を受けている。	B
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費 ②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点 ③経営の効率化 ④合理的な会計制度	施設内照明のLED化を推進し電気使用料金の削減を図った。駐輪場利用状況、季節等に合わせた場内照明・空調設備の調整及び事務室内不要時の照明等の電源管理、エアコンの温度調整等による環境への配慮、コスト削減に努めた。消耗品については、他管理施設を含め一括調達によるコスト削減、発注数量をまとめて購入単価の引き下げを行った。他駐輪場との共通経費の一元化による経費削減に努めた。消耗品購入先、修繕依頼業者の選択肢を増やし適正価格での発注を行った。清掃作業、簡単な修繕作業等について係員が行うことでのコスト削減に努めた。従業員スキルアップによる時間短縮、配置人員の見直し等により経費削減、効率化を図った。	B

総合評価コメント	総合評価
各駐輪場においては、新型コロナウイルス感染予防対策として、全職員にフェイスシールドの配布や、飛沫感染防止ビニールシートを設置するなど感染予防対策にも力を入れており、その他にも、職員全員を対象とした研修を実施する等、利用者が使用しやすい施設運営に努めていることが評価できる。 端岡駅前駐輪場における新システム導入に係る施設利用者に向けた対応、高齢者及び子供連れ利用者等に対する補助やシステムに不慣れな利用者への説明など、駐輪場利用者の立場に立ったサービスの提供がなされており、安全・安心な公共施設の管理者の責務を果たしており、また、支払いに加え、定期利用証としても登録できるICカード(イルカ)の利用促進、ホームページによる動画案内等の利用促進を実施したことなども評価できる。 なお、施設利用件数及び利用収入は近年、減少傾向ではあるが、更なる経費削減と利用促進対策を行い、利用件数及び利用収入が増加することを期待する。	B